

弘道館・水戸城跡周辺地区景観づくり勉強会

三の丸の歴史とまちの風景 ～三の丸の景観を守り、育てるために～ を開催しました！

水戸市では、現在、弘道館・水戸城跡周辺地区において、『都市景観重点地区』の指定と『屋外広告物特別規制地区』の拡大に向けた取組を進めています。今回、地区のみならず、三の丸地区の歴史や景観づくりの考え方について理解を深めていただくとともに、水戸市がこの地区で進めている景観に関する取組をご説明するため、景観づくり勉強会「三の丸の歴史とまちの風景～三の丸の景観を守り、育てるために～」を開催しました。その主な内容をご報告します。

- ★開催日時★ 平成30年2月1日(木) 18:30～20:15
- ★開催場所★ 三の丸市民センター 1Fホール
- ★プログラム★
 - 1 三の丸地区の歴史 講師：小坪のり子氏(弘道館事務所 主任研究員)
 - 2 景観を考える視点 講師：三上靖彦氏(NPO法人茨城の暮らしと景観を考える会代表理事)
 - 3 水戸市の景観に関する取組 説明：水戸市都市計画課景観室



『水戸市の景観に関する取組』

水戸市では、「水戸」ならではの個性を生かし、魅力を高めるため、水戸の歴史の象徴ともいえる三の丸地区において、歴史的景観づくりを推進しています。その一つとして、多くの方に、「歴史」のまちであると感じていただくために、歴史的建造物の復元などの整備を進めています。そして、もう一つの取組として、三の丸地区のみならず、地区全体で「歴史」を意識した景観づくりを進めるために、また、今ある良好な景観を守り、育てるために、『都市景観重点地区』と『屋外広告物特別規制地区』の2つの制度により、新たなルールの導入に向けた検討を行っています。

都市景観重点地区の指定について



- 【地区の景観特性】
- 弘道館や水戸城跡をはじめとした多くの歴史的資源がある
歴史・文化のまち
 - 斜面緑地や弘道館公園などの多くの緑がある
緑豊かなまち
 - 水戸駅周辺や商業施設などの都市的な賑わいが感じられるまち

地区の景観特性を生かした景観づくりの「目標」と「ルール(都市景観基準)」
地区指定とともに景観づくりの目標とルールを定めます。

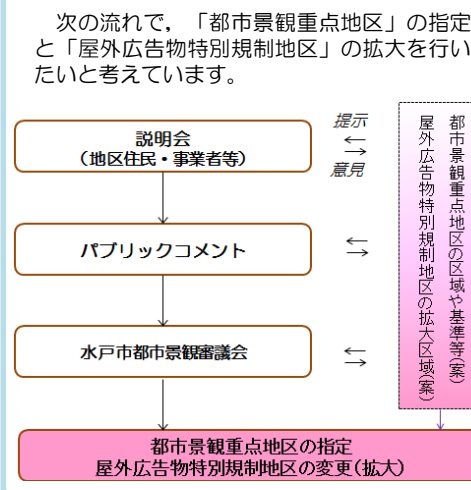
- 景観づくりのルールって何のルール？
- 建物、門・塀などの工作物、屋外広告物の形態や意匠、色彩や緑化など
- どういときにルールを守らないといけないの？
- 新築する時、増改築する時、外壁を塗替える時 など

屋外広告物特別規制地区の拡大について



- 規制される屋外広告物は？
- 表示面積の1/4を超えて彩色を使用したもの
 - 蛍光、発光、反射を伴う塗料又は材料を使用したもの
 - ネオン、点滅照明、回転灯等を使用したもの
- 地区に指定された後は？
- 規制対象の屋外広告物
 - 新たに設置 → 不可
 - 現在ある → 撤去や改修が必要

地区指定・拡大に向けた今後の流れ



【発行・問合せ】

水戸市都市計画部都市計画課景観室
住所：〒310-8610 水戸市中央1-4-1
電話：029(232)9206
FAX：029(224)1117
Email：keikan@city.mito.lg.jp

【備考】

当日の資料は、市のHP (<http://www.city.mito.lg.jp/000271/000273/000288/000361/001879/p018824.html>) に掲載しています。

『三の丸地区の歴史』

講師：小坪のり子氏
(弘道館事務所 主任研究員)

今年は、明治維新150年記念などにより、三の丸地区がますます注目されていること、また、地区の道路愛称が「水戸学の道」となったことに触れ、「水戸学」とは何か？「水戸学の特徴」は何か？や、著名な歴史上の人物などのエピソードを交えて、「水戸学」が幕末の志士たちに多大な影響を与えたことを説明しました。

そして、水戸の学問・教育の礎を築いた一人である徳川斉昭が創設した「弘道館」と「偕楽園」は、「一張一弛」の一对の教育施設であること、また、もう一人である徳川光圀が開始した「大日本史」編纂の約250年の過程の中で、学問・教育が水戸に根付いたことなどを説明しました。

さらに、歴史や伝統が息づくまちとして、点にする文化財や史跡をつなぎ、面(地区)として魅力発信していくことが大事であること、来訪者が、歴史、伝統、文化を大事にしているまちだと感じてもらえるような、地域の方による景観づくりをしていただけたら、といった地区に対する思いを話しました。

水戸学とは

水戸学は、儒学と国学と神道の三者から影響を受けつつ、これらを融合して独自の思想体系を樹立したものである。

◇水戸学→前期水戸学・後期水戸学

前期水戸学とは
2代藩主徳川光圀がはじめた『大日本史』の編纂事業の過程で生まれた学問。

後期水戸学の特徴

後期水戸学とは
9代藩主徳川斉昭、藤田鳴谷・東湖、会沢正志斎らが唱えた独自の学風。

- 水戸学の特徴
- ①実践性…現実社会が直面する課題解決に役立つことを目指す。
 - ②先見性…将来を見据えた学問
 - ③国家的視野…水戸藩という枠を超えた学問
- 尊王攘夷…天皇を尊び敬い人心をひとつにして外国から日本の独立を守る。
※幕末の志士たちに多大な影響を与えた。

吉田松陰と水戸学

松陰は、嘉永3年(1850)の九州遊学中に会沢正志斎の『新論』を読み、感銘を受け、東北遊学の途中に嘉永4年12月19日から翌年1月20日まで水戸藩に滞在し、会沢ら水戸学の学者のもとを訪れて大きな影響を受けた。
松下村塾では、水戸学の書物が教科書として使用されていた。獄中での手記に「余深く水戸の学(水戸学)に服す。謂へらく神州の道新にあり」と記している。

弘道館と偕楽園



講演の様子

幕末から明治初期の写真



欧州の街角から



黒川温泉



日本の街角風景



講演の様子